



心の宝物

えっ、何、今の音ー。

私が生まれて初めて音に感動した瞬間でした。今から約30年くらい前、季節は秋、会場は大阪中之島にあるフェスティバルホール、舞台上で演奏しているのはベルリンフィルハーモニー管弦楽団、指揮は名指揮者として名高かった今は亡きヘルベルト・フォン・カラヤンです。



羽ノ浦町 七條 富美さん

その演奏会からさかのぼると5、6年、私は中学生だったと思います。テレビの画面でカラヤンが指揮する姿を見て、初めてベルリンフィルとカラヤンの存在を知ったのです。その時の映像が強烈でいつか本物の音を聞きたいと思っていました。それから数年後大学生となり、

ベルリンフィルの大阪公演がある事を新聞で知り、お小遣いをはたいてチケットを購入しました。その当時は明石大橋などなく、徳島の港から神戸まで船で行ったのですが、ひどい酔いをしてしまい、ふらふらの状態で会場に着いたのを覚えています。しかし演奏が始まると、酔いもどこへやら、舞台上で練り広げられる演奏にくぎづけとなり、目を見開いたままの2時間でした。それから約30年の月日が経った今も、音楽と共に生活しております。その間にいろいろな感動する音に出会えました。音楽ではお腹はふくれませんが、心が満たされます。今まで聞いて感動した音、舞台は私の心の宝物です。さあ今年はどうな音に出会えるでしょうか。

次は、日開野町の高田悠歌里さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭 短歌大会 作品

市長賞

湯浅佐智子
畑よりの汗含みたる作業着のぼつたり重き酷暑を絞る

議長賞

山根千代美
詔はず卑下もせず吾みずからを保ちゆくべし農の生業

教育長賞

臣永 悦子
農協へ紅葉マークは左折する新米の袋高く積みいで

互選賞

吉永賀代子
世代差の会合の中に集いて幾度となく呑む言葉あり

互選賞

米田千代美
梅漬けの紫蘇に染まりてマニキュアに緑なき爪がうす紅の色

入選

紅露 勝子
前にならえの姿勢に立てる我指して耕運機の夫真直ぐに来る

入選

福崎 孝子
絵のような夏雲くぐり翔びゆくか曾孫ら帰す舗装の街へ

中学生短歌のポスト投稿歌

入選

池田 聖良
山からの蝉の鳴き声響きつつ風に吹かれて木も踊ってる

入選

白 夕華
青空に雲が一面広がって雨が奏でる不思議なりズム

入選

藤田 凌
ふるさとに生きる僕らを守る木々新たな緑が芽生えだすと

入選

遠藤 薫
手の平に強く伝わるみんなの思いチームのために打ちぬく一本

入選

小西 悠也
緑からまっ赤に染まる山の色

入選

松本明香里
見てると心もまっ赤に染まるどこからかいつのまにかやって来て秋をふりまく赤とんぼたち

入選

是松 尚樹
さおが引く魚が釣れたその時に自分の顔も笑顔を釣った

入選

大村 郁弥
温かい人があふれる伊島にはイシマササユリ清らかに揺れ

俳句

阿南市俳句連合会選

入選

安部 和子
段畑に柚子色つきぬ過疎の里

入選

三好美代子
秋高し魁の志士しのび行く

入選

藤本 治平
電線の風の声聞く冬隣

柏 孝則

野末まで児等の歓声秋の空

阿部 和恵

大空に大漁うれしきいわし雲

佐々木八千代

石山の石にはりつく散紅葉

五光 春海

荒びたる風に揉まれし新松子

近藤ヤス子

新わらの匂う柵田のコンサート

神原 鹿山

女湯の聲賑ひて紅葉宿

横手 義人

生かされて知足安分花八手

橋本 征介

した咳が効いて止まった長講話

林 満子

幸せな会話十五分の足湯

原 公美子

老いらくの恋へマッチの火がつかぬ

野村 敏子

自分らしく生きよう風になるいのち

持木 寿栄

菜園もころも替えて鍋準備